富山高等専門	学校	開講年度	令和03年度 (2	021年度)	授業科目	データサイエンス I			
科目基礎情報	科目基礎情報								
科目番号	0074			科目区分	専門 / 必	修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位	: 1			
開設学科	機械システム工学科			対象学年	1				
開設期	前期			週時間数	2				
教科書/教材	1.改訂新版よ 題65でしっか	くわかる情報リ り学ぶ Word/I	テラシー(標準教科 Excel/PowerPoint	斗書),技術評論社; 票準テキストWindo	改訂新版;第2(ws10/Office2)	(2017/7/26). / 2.例題35+演習問 016対応版,技術評論社 (2016/4/27)			
担当教員	石黒 農,田尻	智紀							
目的・到達目標									
目的・到達目標 数理データサイエンス・AI, 情報リテラシー, セキュリティ等を学修し, 今後の情報化社会での日常生活や仕事等の場面で活用することができる基礎的素養を身につけること. 社会情勢や社会での実例学ぶことにより, 人間中心の適切な判断ができ, 学修した知識やスキル等を説明, 活用できるようになること. (1) 数理データサイエンス・AIと社会の関わり (2) 情報リテラシー (3) セキュリティ									

(4) オフィススイート活用

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 (数理データサイエンス・AIと社会 の関わり)	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき、広範にわたる課題解決に有用であることを実例を挙げて詳細に説明できる.	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき、広範にわたる課題解決に有用であることを説明できる。数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に不好に結びつき、広範にわたる課題解決に有用であることを説明できる.	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できない.
評価項目2 (情報リテラシー)	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を理解し,詳細を説明できる.	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できる.	コンピュータやネットワークにつ いての基礎技術およびその役割を 説明できない.
評価項目3 (セキュリティ)	セキュリティの重要性を理解し, 基礎技術について詳細に説明できる.	セキュリティの重要性, 基礎技術について説明できる.	セキュリティの重要性, 基礎技術について説明できない.
評価項目4 (オフィススイート活用)	ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトを自在に使用することができる.	ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトを使用することができる.	ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトを使用することができない.

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	「データサイエンス I 」「データサイエンス II 」を通して、文理問わず高専生が学修すべき情報技術に関するリテラシー 、数理データサイエンス・AIやセキュリティを学ぶ。 知識だけではなく、社会における重要性を実例を通して学んだり、実データを用いた演習を実践することで、現実社会の 課題発見・解決力と適切な活用法の修得のための基礎素養を身につける。
授業の進め方と授業内 容・方法	講義および実データを用いた演習を中心に授業を進める。 学修した知識の社会における重要性や利活用を学ぶ際には、自らの考え等をまとめ、他者と議論するため、グループワーク等を実施する。
	<評価> 試験,発表,その他(レポート等)を総合的に評価する.各評価は,試験50%,レポートおよびポートフォリオ(レポートの提出と保管能力)50%の割合とする.単位認定には50点以上の評定が必要である.授業態度が悪い場合には減点措置がある。
注意点	 <追認試験>

評価が50点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者にあっては、その評価を50点とする。

<授業計画> 授業計画は, 学生の理解度等に応じて変更する場合がある.

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☑ 実務経験のある教員による授業
--------------	----------	----------	------------------

授業計画

		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス 情報システム利用	授業の進め方を理解できる. 情報システム利用の設定ができる.
		2週	情報システム設定	パソコンやネットワークの設定ができる.
		3週	社会情勢	情報化社会での数理データサイエンス・AIの学修の重要性について理解できる.
		4週	数理データサイエンス・AIと社会	数理データサイエンス・AIと社会の変化の関わりについて理解できる.
前期	1stQ	5週	数理データサイエンス・AIの活用技術	数理データサイエンス・AIを実社会で活用する際の基礎技術について理解できる.
		6週	数理データサイエンス・AIとビジネスの関係(実社会での活用例)	数理データサイエンス・AIとビジネスとの関わりを学び、実社会での活用について理解できる.
		7週	情報モラルとセキュリティ(1) - 情報の扱い, ポリシー, マナー -	セキュリティの重要性や情報の取り扱い, 規則やポリシーを理解できる. インターネット利用の危険性やマナーを理解できる.
		8週	情報モラルとセキュリティ(2) - サイバー攻撃, セキュリティ技術, マネジメント -	サイバー攻撃と防御技術を学び, セキュリティの要素 技術について理解できる. リスク管理やマネジメント法について理解できる.

		9週	情報リテラシー(1) - コンピュータの動作	京理 -		コンピュータの動作原理,構成,ハードウェアとソフトウェアの役割を理解できる.コンピュータの情報表現について理解できる.			
		10週	情報リテラシー(2) - ネットワーク基礎 -				構成や仕組みについて理解		
		11週	情報リテラシー(3) - フローチャート, アル	レゴリズム -		フローチャートやアルゴリズムについて理解できる.			
	2ndQ 1		Office Suite活用(1)	Office Suite活用(1)			フト, プレゼンテーションソ を理解できる.		
			Office Suite活用(2)	Office Suite活用(2)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.		
		14週	Office Suite活用(3)	師(3)		ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.			
		15週	期末試験	期末試験			各授業の理解度を測るため, 試験を実施する.		
		16週	答案返却,解説,授業	評価アンケート					
評価割合	ì								
			試験	レポート/ポートフォリオ	態		合計		
総合評価割	合		50	50	10)	110		
基礎的能力	1		25	25	10)	60		
専門的能力	1		25	25	0		50		

	山高等専	 門学校	開講年度	令和03年度 (2	 2021年度)	授業科目	データサイエンス I	
科目基础		113312	1/13/17 1/2	1311100 1 /2 (2	10211/2)	JAKITH		
科目番号		0077			科目区分	専門 / 必	修	
<u></u>		授業			単位の種別と単位			
開設学科		電気制御	システム工学科		対象学年	1		
開設期		前期			週時間数	2		
教科書/教	女材	最新情報	処理概論(改訂版、	安藤明之著 実教	(出版)			
担当教員		金子 慎一	郎,石田 文彦					
目的・3	到達目標							
基礎的素 社会情勢 (1) 数理 (2) 情報! (3) セキ	養を身につ(や社会での) データサイ <u>:</u> リテラシー	けること 実例学ぶこと Ľンス・AIと	•	•			上事等の場面で活用することができる 5用できるようになること.	
ルーブ!	リック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	 ベルの目安	未到達レベルの目安	
			数理データサイ	エンス・AIが社会	数理データサイコ	r、フ・AIが社会	数理データサイエンス・AIが社会	
評価項目: (数理デー の関わり) 	-タサイエン	·ス・AIと社会	会 びつき, 広範にれ 用であることを に説明できる.	の生活に密接に結)たる課題解決に有 実例を挙げて詳細	変化および自らの びつき, 広範にわ 用であることを記	D生活に密接に結 かたる課題解決にな 说明できる.	変化および自らの生活に密接に結 切つき, 広範にわたる課題解決に有 用であることを説明できない.	
評価項目: (情報リテ			コンピュータやっ いての基礎技術。 理解し, 詳細を訪	ネットワークにつ およびその役割を 知できる.	コンピュータやイ いての基礎技術は 説明できる.	うよびその役割を	いての基礎技術およびその役割を 説明できない.	
評価項目: (セキュリ				重要性を理解し, 基 詳細に説明できる.	ついて説明できる	3.	ついて説明できない.	
評価項目・ (オフィス	4 ベスイート活	浦)	ワープロソフト, レゼンテーショ: 使用することが	. 表計算ソフト, プ ンソフトを自在に できる.	ワープロソフト, レゼンテーション ることができる.	表計算ソフト, フ シソフトを使用す	プロープロソフト,表計算ソフト,プレゼンテーションソフトを使用することができない.	
学科の発	到達目標耳	頁目との関	係					
教育方法	 去等							
概要 授業の進 窓・方法	め方と授業に	,数理デー 知識だけ 課題発見 講義およ 学修した	- タサイエンス・AI ではなく, 社会にお ・解決力と適切な活 び実データを用いた 知識の社会における	やセキュリティをきける重要性を実例を ける重要性を実例を 所法の修得のための でででででは	学ぶ. を通して学んだり, の基礎素養を身に を進める.	実データを用いた つける.	修すべき情報技術に関するリテラシー に演習を実践することで、現実社会の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
注意点		位認定に <追認試 評価が50 められた <授業計	表, その他(レポー は50点以上の評定が 験>)点に満たない者は, 者にあっては, その	が必要である. 願い出により追認 評価を50点とする	のための課題を受 ・	·	表20%, その他40%の割合とする. 単 5. 追認課題の結果, 単位の修得が認	
	 属性・履値	多上の区分	•	icino exxy o /	<u> </u>			
	ティブラーニ		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
_ , , , ,	122 -		12 10: 13/13					
授業計画								
-~-	Ī	週					######################################	
			<u> ガイダンス</u>			授業の進め方を現		
		1/四	情報システム利用				まができる. 目の設定ができる.	
		2週	情報システム設定				トワークの設定ができる.	
		3週	社会情勢				数理データサイエンス・AIの学修の重	
						要性について理解	罪できる. Eンス・AIと社会の変化の関わりにつ	
		4週	数理データサイエン	レス・AIと社会				
	1stQ	5週	数理データサイエン	 ンス・AIの活用技術		礎技術についてエ		
前期		6週	数理データサイエン の活用例)	ンス・AIとビジネス		び, 実社会での活	Lンス・AIとビジネスとの関わりを学 i用について理解できる.	
		7週	情報モラルとセキ <u>-</u> - 情報の扱い, ポリ	1リティ(1) シー, マナー -		シーを理解できる インターネット和	川用の危険性やマナーを理解できる.	
		8週	情報モラルとセキニ - サイバー攻撃, セ	ュリティ(2) キュリティ技術, マ	7-7-25-7-2-1	サイバー攻撃と防御技術を学び, セキュリティの		
8週			ザイバー攻撃, セキュリディ技術, マネジメント - 青報リテラシー(1) コンピュータの動作原理 -		コンピュータの動作原理、構成、ハードウェアとソフ ウェアの役割を理解できる。 コンピュータの情報表現について理解できる。			

	10週	情報リテラシー - ネットワーク!	(2) 基礎 -		情報ネットワークできる.	の役割,構成や	o仕組みについて理解		
	11週 情報リテラシー(3) - フローチャート, アルゴリズム -			フローチャートや	アルゴリズム(こついて理解できる.			
	12週	Office Suite活用	office Suite活用(1)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.			
				ワープロソフト, 勃 フトの実習を通し	長計算ソフト, て活用法を理解	プレゼンテーションソ 解できる.			
				ワープロソフト, 勃 フトの実習を通し	ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.				
	15週	期末試験			各授業の理解度を	各授業の理解度を測るため, 試験を実施する.			
	16週	答案返却,解説	, 授業評価アンケ-	- ト					
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価割合	40	20	0	0	0	40	100		
基礎的能力	20	10	0	0	0	20	50		
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0		
分野横断的能力	20	10	0	0	0	20	50		

	山高等専		開講年度	令和03年度 (2	2021年度)	授業科目	データサイエンス I	
		. コラベ		」 フロロンナ/文(2	-v=++x)			
科目番号	E I FIX	0002			科目区分	専門 / 必	修	
符白笛写_ 授業形態					7	立の種別と単位数 履修単位: 1		
開設学科		電子情報	 丁学科		対象学年	1		
開設期		前期			週時間数	2		
<u>//3.62//3</u> 教科書/教	 (材	1		安藤明之著 実教	(出版)			
担当教員	.,,,],秋口 俊輔,門村 英					
日的・至	到達目標		,					
基礎的素養 社会情勢か (1) 数理ラ (2) 情報リ (3) セキニ	養を身につい や社会での写 データサイコ Jテラシー	けること 『例学ぶこと 『ンス・AIと	•	ŕ			比事等の場面で活用することができる 5用できるようになること.	
ルーブリ	ノック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 (数理デー の関わり)	·タサイエン	ス・AIと社会	変化および自ら 会 びつき, 広範にれ	エンス・AIが社会 の生活に密接に結 Oたる課題解決に有 実例を挙げて詳細	一変化および自らの	エンス・AIが社会 の生活に密接に結)たる課題解決に ^な 说明できる.	変化および自らの生活に密接に結	
評価項目2 (情報リテ			コンピュータや いての基礎技術。 理解し, 詳細を記	ネットワークにつ およびその役割を 説明できる.		ネットワークにつ およびその役割を		
評価項目3 (セキュリ			礎技術について	重要性を理解し, 基 詳細に説明できる.	ついて説明でき		ついて説明できない.	
評価項目4 (オフィススイート活用)		ワープロソフト, レゼンテーショ! 使用することが	, 表計算ソフト, プ ンソフトを自在に できる.	ワープロソフト, レゼンテーション ることができる.	表計算ソフト, フ ンソフトを使用す	プロープロソフト,表計算ソフト,プレゼンテーションソフトを使用することができない.		
学科の到	到達目標項	目との関	係					
MCCコア		(-				
	マポリシー	3						
概要 授業の進 ^{&} 容・方法	め方と授業P	知識だけ 課題発見 よ 講義およ	・解決力と適切な活 び実データを用いた 知識の社会における	ける重要性を実例を 所法の修得のため。 で演習を中心に授業	を通して学んだり, の基礎素養を身に を進める.	つける.	に演習を実践することで、現実社会の 	
注意点		<評価A 試験元に 会認認証 会認試 評価が50 められた <授業計	表, その他(レポー は50点以上の評定が 験>)点に満たない者は, 者にあっては, その	が必要である. 願い出により追認 評価を50点とする	のための課題を受	•	表20%, その他40%の割合とする. 単 3. 追認課題の結果, 単位の修得が認	
授業の原	属性・履修	を上の区分	•					
☑ アクテ	-ィブラーニ	ング	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	,	□ 実務経験のある教員による授業	
	<u> </u>							
授業計画	1	週						
授業計画		~	授業内容・方法			週ごとの到達目標	## T	
授業計區		1	ガイダンス			授業の進め方を理	- 里解できる.	
授業計画		1週	ガイダンス 情報システム利用			授業の進め方を5 情報システム利用	里解できる. 目の設定ができる.	
授業計區		1週 2週	ガイダンス			授業の進め方を理情報システム利用 パソコンやネッ 情報化社会での数	理解できる. 目の設定ができる. - ワークの設定ができる. 攻理データサイエンス・AIの学修の重	
授業計[1週 2週 3週	ガイダンス 情報システム利用 情報システム設定			授業の進め方を5 情報システム利用 パソコンやネッ 情報化社会での数 要性について理解	理解できる. 目の設定ができる. - ワークの設定ができる. 攻理データサイエンス・AIの学修の重	
	1stQ	1週 2週 3週	ガイダンス 情報システム利用 情報システム設定 社会情勢		ī	授業の進め方を理情報システム利用 情報システム利用 パソコンやネッ 情報化社会での数 要性について理解 数理データサイニ いて理解できる.	理解できる. 目の設定ができる. トワークの設定ができる. 対理データサイエンス・AIの学修の重 なできる. ロンス・AIと社会の変化の関わりにつ ロンス・AIを実社会で活用する際の基	
	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週	ガイダンス 情報システム利用 情報システム設定 社会情勢 数理データサイエン	ンス・AIの活用技術		授業の進め方を打情報システム利用パソコンやネッ情報化社会での数理性について理解を受ける。数理データサきる。数理データサいて登録地につります。数理データサイスである。数理データサイスで、実社会での記述が、実社会での記述が、実社会での記述を表示を表示。	理解できる. 用の設定ができる. トワークの設定ができる. 枚理データサイエンス・AIの学修の重解できる. Eンス・AIと社会の変化の関わりにつ Eンス・AIを実社会で活用する際の基理解できる. Eンス・AIとビジネスとの関わりを学に用について理解できる.	
<u>授業計</u>	1stQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週	ガイダンス 情報システム利用 情報システム設定 社会情勢 数理データサイエン 数理データサイエン 数理データサイエン	ンス・AIの活用技術 ンス・AIとビジネス コリティ(1)		授業の進め方を対情報システム利別が、 情報システム利別が、 が、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	理解できる. 用の設定ができる. マワークの設定ができる. な理データサイエンス・AIの学修の重解できる. Eンス・AIと社会の変化の関わりにつ Eンス・AIを実社会で活用する際の基理解できる. Eンス・AIとビジネスとの関わりを学に対していて理解できる.	

			情報リテラシー(1) - コンピュータの動	协作原理 -		コンピュータの動 ⁴ ウェアの役割を理! コンピュータの情!	コンピュータの動作原理,構成,ハードウェアとソフトウェアの役割を理解できる.コンピュータの情報表現について理解できる.			
		10週					の役割,構成や仕組	且みについて理解		
		11週	情報リテラシー(3) - フローチャート,	アルゴリズム -		フローチャートや:	アルゴリズムについ	いて理解できる.		
	2ndQ		Office Suite活用(1			ワープロソフト, 君 フトの実習を通し	長計算ソフト, プレ て活用法を理解で	ゼンテーションソ きる.		
		13週	Office Suite活用(2)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.				
		14週	Office Suite活用(3) 期末試験			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.				
		15週				各授業の理解度を測るため, 試験を実施する.				
		16週	答案返却,解説, 持	受業評価アンケー	\					
評価割合	ì									
	詎	験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価割	合 4	0	20	0	0	0	40	100		
基礎的能力	j 2	0	10	0	0	0	20	50		
専門的能力	0 0		0	0	0	0	0	0		
分野横断的	能力 2	0	10	0	0	0	20	50		

宇	山高等専	明学校	開講年度	令和03年度 (2	.0.21 左帝\	授業科目	データサイエンス I		
		打一大仪		市和03平皮(2	.021牛/支)	汉未代日	テータリイエンス I		
科目番号	と目主以	0018	利日区 公		科目区分	専門 / 必	· k		
授業形態		授業			単位の種別と単位				
開設学科			国際ビジネス学科			1	1		
開設期		前期	12/17		対象学年 週時間数	2			
教科書/教	 材		 ト合格教本, 30時	開でマスターFXCF					
担当教員	1/3						,宮重 徹也,萩原 信吾,清 剛治		
目的・至		N B B B B B B B B B B B B B B B B B B	(III) Dimpolari	1071200 923271 5 1 1	<i>33770</i> 4 1 3 1 3 7 m.	<u> 20 лду гушиз эвгэ</u>			
基礎的素養 社会情勢な (1) 数理テ (2) 情報し (3) セキコ	§を身につい ☆社会での§ ボータサイニ リテラシー	けること. 実例学ぶこと Lンス・AIと	•	,			事等の場面で活用することができる 用できるようになること.		
ルーブリ	Jック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ/	ベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (数理デー の関わり)	タサイエン	⁄ス・AIと社会	変化および自らる びつき, 広範にれ	エンス・AIが社会 の生活に密接に結 Oたる課題解決に有 実例を挙げて詳細	数理データサイニ 変化および自らの びつき, 広範にれ 用であることを記	エンス・AIが社会 D生活に密接に結 Dたる課題解決に 対明できる.	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できない.		
評価項目2 (情報リテ			コンピュータや いての基礎技術。 理解し, 詳細を訪	ネットワークにつ およびその役割を 礼明できる.	コンピュータやさいての基礎技術は 説明できる.	ネットワークにつ およびその役割を	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できない.		
評価項目3 (セキュリ			礎技術について	重要性を理解し, 基 詳細に説明できる.	ついて説明できる	3.	ついて説明できない.		
評価項目4 (オフィス	 スイート活	誦)	ワープロソフト, レゼンテーショ 使用することが	表計算ソフト, プンソフトを自在にできる.	ワープロソフト, レゼンテーション ることができる.	表計算ソフト, ブ ンソフトを使用す	プロープロソフト,表計算ソフト,プレゼンテーションソフトを使用することができない.		
		頁目との関	1		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
_{ティフロ} 、 教育方法	<u> アポリシー</u>	1							
概要 授業の進め容・方法	か方と授業に	知識だけ 課題発見 計 講義およ	・解決力と適切な活 び実データを用いた 知識の社会における	ける重要性を実例を 肝法の修得のための 演習を中心に授業を	を通して学んだり, の基礎素養を身に を進める.	つける.	上演習を実践することで, 現実社会の 他者と議論するため, グループワー		
注意点		レポート <追認試 評価が50 められた <授業計	点に満たない者は, 者にあっては, その	願い出により追認 評価を50点とする	のための課題を受		。 追認課題の結果,単位の修得が認		
	 属性・履何	<u> </u>			<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>				
☑ アクテ	ィブラーニ	ング	☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	<u>,</u>	□ 実務経験のある教員による授業		
授業計画	Ī								
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	<u> </u>		
		1週	ガイダンス			授業の進め方を理			
			情報システム利用		情報システム利用の設定ができる				
			情報システム設定 社会情勢			情報化社会での数	·ワークの設定ができる. 対理データサイエンス・AIの学修の重		
		4週	<u></u> 数理データサイエン	ンス・AIと社会		要性について理解 数理データサイエ いて理解できる.	こンス・AIと社会の変化の関わりにつ		
	1stQ		数理データサイエン 係(実社会での活用 ⁾		、ビジネスの関	数理データサイエ 礎技術について理	ンス・AIを実社会で活用する際の基 単解できる.またビジネスとの関わりを 活用について理解できる.		
前期		6週	 情報リテラシー(3) - フローチャート,	情報リテラシー(3)		,	アルゴリズムについて理解できる.		
		7週	_フローチャート,´アルゴリズム - 情報リテラシー(1) _ コンピュータの動作原理 -			 コンピュータの動作原理, 構成, ハードウェアとソフト ウェアの役割を理解できる.			
				がF原理 -		コンピュータの情報表現について理解できる。 セキュリティの重要性や情報の取り扱い, 規則やポリシーを理解できる。			
			情報モラルとセキュー・情報の扱い, ポリ	ュリティ(1)		コンピュータの情 セキュリティの重 シーを理解できる	要性や情報の取り扱い,規則やポリ		

	10週 情報リテラシー(2) - ネットワーク基礎 -			情報ネットワーク(できる.	情報ネットワークの役割,構成や仕組みについて理解できる.			
	11週 情		·(4) 会 -		情報に関わる基本に	情報に関わる基本的な法律に関して理解ができる。		
12週 情報リテラシー(5) - 法と情報化社会 -			情報に関わる基本に	情報に関わる基本的な法律に関して理解ができる。				
13週 Office Suite活用(1)				ワープロソフト, え フトの実習を通し	長計算ソフト, ブ て活用法を理解	ンゼンテーションソ できる.		
	14週 C		Office Suite活用(2)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.		
	15週	Office Suite活序	Office Suite活用(3)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.		
	16週	授業評価アンケ	·- ト					
評価割合								
	試験	課題	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100	
基礎的能力 0		30	0	0	0	20	50	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	30	0	0	0	20	50	

			T			1					
	山高等専	門学校	開講年度	令和03年度 (2	.021年度)	授	業科目	デー	タサイエンス I		
科目基础	21111111111111111111111111111111111111	0215			科目区分		·	<i>l.</i>			
科目番号			0018			,					
授業形態 開設学科		授業 商船学科			単位の種別と単位 対象学年						
開設期		前期		週時間数	2						
教科書/教		נאלום		過时的数							
担当教員	(1/3	新開 純子	 ·,経田 僚昭,小林 大								
	到達目標	10000	,, <u>—</u> , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,								
基礎的素積 社会情勢や (1) 数理ラ (2) 情報! (3) セキュ (4) オフィ	養を身につ! や社会での! データサイエ リテラシー エリティ ィススイート	けること. 実例を学ぶこ ニンス・AIと	•	リティ等を学修し, の適切な判断ができ							
ルーブリ	ノツク		班相的+2到法,	~ II の日空		× II ΦΕ		土口			
			理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安				未到達レベルの目安		
評価項目1 (数理データサイエンス・AIと社会 の関わり)			数理データサイエンス・AIが社会 変化および自らの生活に密接に結 がつき、広範にわたる課題解決に有 用であることを実例を挙げて詳細 に説明できる.		数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき、広範にわたる課題解決に有用であることを説明できる.			変化	数理データサイエンス・AIが社会変化および自らの生活に密接に結びつき, 広範にわたる課題解決に有用であることを説明できない.		
評価項目2 (情報リテラシー)			コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を理解し,詳細を説明できる.		コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できる.		いて	コンピュータやネットワークについての基礎技術およびその役割を説明できない.			
評価項目3 (セキュリティ)			セキュリティの重要性を理解し, 基礎技術について詳細に説明できる.		セキュリティの重要性, 基礎技術に ついて説明できる.		つい	-ュリティの重要性 \て説明できない.			
評価項目4 (オフィススイート活用)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトを自在に使用することができる.		ワープロソフト, レゼンテーション ることができる.	ワープロソフト, 表計算ソフト, プ レゼンテーションソフトを使用す ることができる.		ーレセ	ワープロソフト, 表計算ソフト, フレゼンテーションソフトを使用することができない.		
学科の至 MCCコア ⁵		目との関	· 係								
教育方法											
概要 授業の進む 容・方法	め方と授業内	知識だけ 課題発見	ではなく, 社会にお ・解決力と適切な活 び実データを用いた 知識の社会における	やセキュリティを ける重要性を実例を 所法の修得のための 演習を中心に授業 重要性や利活用を	と通して学んだり, の基礎素養を身にこ						
注意点		位認定に <追認試 評価が50 められた <授業計	表, その他(レポート等)を総合的に評価する. 各評価は, 試験40%, 発表20%, その他40%の割合とする. 単は50点以上の評定が必要である. 検> 点に満たない者は, 願い出により追認のための課題を受けることができる. 追認課題の結果, 単位の修得が認 者にあっては, その評価を50点とする.								
授業の属	三性·履修	と上の区分	8, 于工》至开及守	に心ひて交叉するか	<u>лилого.</u>						
	コー /皮で		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応			ПП	 実務経験のある教員	こここの おまま こうしゅう かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう かいしゅう かいしゅう かいしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	
			, - , 5, 13							_ 35010	
授業計画	<u></u>										
		週	授業内容・方法			週ごと	の到達目標	票			
前期	1stQ		ガイダンス								
			情報システム利用					の設定ができる. ユータの設定ができる			
			情報システム設定						ワークの設定ができる. 理データサイエンス・AIの学修の重		
		3週	社会情勢			要性について理解		罪できる	できる.		
		4週	数理データサイエンス・AIと社会			いて理解できる.			ンス・AIと社会の変化の関わりにつ		
			対理データサイエンス・AIの活用技術			礎技術	データサイエンス・AIを実社会で活用する際 所について理解できる. データサイエンス・AIとビジネスとの関わり				
			対理データサイエンス・AIとビジネス(D活用例)		,	び, 実社会での活用		用につ	ンス・AIとヒンネスとの関わりを子 用について理解できる. 要性や情報の取り扱い,規則やポリ		
		7週	情報モラルとセキ: - 情報の扱い, ポリ	シーを理解できる. インターネット利用		る. 引用の危	用の危険性やマナーを理解できる.				
		8週	情報モラルとセキニ - サイバー攻撃, セ	ネジメント -	技術について理解できる. リスク管理やマネジメン			ント法について理解できる.			
	2ndQ	9週 情報リテラシー(1) - コンピュータの動作原理 -				コンピュータの動作原理,構成,ハードウェアとソフウェアの役割を理解できる。 コンピュータの情報表現について理解できる.				 ェアとソフト :る.	
	-							31K247		•	

	10週	情報リテラシー - ネットワーク	(2) 基礎 -		情報ネットワーク できる.	の役割, 構成や	P仕組みについて理解			
	11週	情報リテラシー - フローチャー	青報リテラシー(3) フローチャート, アルゴリズム -			フローチャートやアルゴリズムについて理解できる.				
	12週	Office Suite活用	Office Suite活用(1)			ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.				
	13週 Office Suite活用(2)				ワープロソフト, まフトの実習を通し	ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.				
	14週 Office Suite活用(3)			ワープロソフト, オフトの実習を通し	ワープロソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフトの実習を通して活用法を理解できる.					
	15週	期末試験	期末試験			各授業の理解度を測るため, 試験を実施する.				
	16週	答案返却,解説	, 授業評価アンケー	- ト						
評価割合										
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計			
総合評価割合	40	20	0	0	0	40	100			
基礎的能力	20	10	0	0	0	20	50			
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0			
分野横断的能力	20	10	0	0	0	20	50			